

あとから来る者のために
坂村 真民

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦労をし
我慢をし
みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分ができる
なにかをしてゆくののだ

U-net 通信

発行：NPO 法人地球環境共生ネットワーク 〒901-2311 沖縄県中頭郡北中城村字喜舎 1 4 7 8 番地 TEL:0 9 8-923-2600 FAX:098-923-2611

編集人:U-net 発行人:比嘉昭夫

令和 5 年 第 5 回 EM 技術セミナー

U-net 会員対象の第 5 回 EM 技術セミナーが 11 月 10 日にオンラインで開催されました。今回のセミナーでは、福祉施設や学校における EM 活用に取り組んでおられるお二人に発表して頂きましたので発表内容をご紹介します。

「福祉施設における EM 活用」

社会福祉法人未知の会理事長 花の宮子ども園園長 野町承史

皆様、こんにちは、香川県で福祉施設を運営しております、野町承史と申します。今日は、福祉施設での EM 活用についてご報告させていただきます。

私のところでは、二つの社会福祉法人を運営しております。一つは、来年で、設立 50 年を迎える社会福祉法人「未知の会」で春日子ども園、花の宮子ども園、母子生活支援施設「高松市屋島ファミリーホーム」で、私が園長と理事長を引き受けています。もう一つは、幼児期に障害を持って春日子ども園に通って来られた方たちが、養護学校の高等部を卒業後に、地域で、その人らしく生きていくための居場所の必要に迫られて、2005 年に立ち上げた『社会福祉法人ナザレの村』です。こちらは、障害者通所更生施設として元、四国 EM 普及協会会長の岩崎一雄氏が理事長を担ってくださっています。



私は、幼児教育に携わった当初から、環境生物学者であるレイチェルカーソンの著書『沈黙の春』で、人類が使っている化学物質が自然界に蓄積され、それが食物連鎖によって人の身体を蝕んでいくと警告されていましたが、子ども達の健康を預かる者の一人として、環境問題と、子どもの食育については、特に重要課題として取り組んで参りました。

特に、子どもの味覚は 10 歳までに培われると言われており、安全・安心な給食食材の準備を考えていた平成 4 年頃、アトピーを持つ子が増加の傾向にあることを実感し、離乳食用の野菜だけでも、無農薬でと、80 坪の畑を借りて、野菜作りをはじめました。その当時、EM 研究所の津曲社長や救世教の方々に、ボカシ作りや、活性液の作り方を大変親切に教えていただきました。これが、EM との出会いで、これまで、30 年間 EM にはお世話になっております。最初は、給食から出た生ごみをボカシであえて、生ごみ堆肥をつくりましたが、空気に触れて、腐敗発酵となり、大量のウジ虫の発生にも遭遇し、いろいろな失敗を重ねながらの EM 活動となりました。

障害者にとっての EM 活動と、工賃向上のために、ボカシ・活性液の販売では自然農法センターの榎原健太郎氏にも大変お世話になって、販売の許可を頂くまでになりました。その間も、現在の四国 EM 普及協会会長 山下修氏や、U-net 執行理事の芝さんのお父さん達からもいろいろ学ばせていただきました。

各施設では、砂場、プール、おしぼり、手洗いなど、ありとあらゆるところに、EM を使いました。その当時、保育現場では、O-157 の食中毒発生に脅かされて、EM を使用していな他園では、薬品による、除菌・滅菌が行われておりましたが、薬品を使えば使うほど、耐性菌の新たな脅威にさらされておりました。そこで、比嘉先生にお尋ねしましたところ、先生からは、「園内に EM を散布して、EM のレベルを上げれば良い」と、伺いましたので、質のいい活性液や米のとぎ汁発酵液を作って、使い続けて参りました。

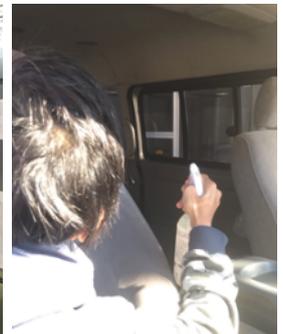
数年前からの、コロナ禍では、ワクチン接種や、除菌滅菌対応に、より一層さらされることになり、化学薬品頼みの対応では子ども達の将来に問題を残すことになり、その責任は、誰がとっていくのか？と、大変危惧しております。その中で、私達の施設では、比嘉先生のアドバイスが、大きな支えとなって、現在の当法人の環境を、微生物で支えるという実践活動が着実に展開できております。

ところが、スタート当時から EM の学習を深め、リーダーとして頑張っておりました方々が高齢となり、スタッフが若い方に入れ替わると、EM 活動も下火になり、EM による環境づくりも定着しないといった課題が見えてきました。継続した EM による環境づくりや、新しい EM 活用方法の推進のために、どうすればよいかと思案をしている時に、愛媛で野本佳鈴氏が耕作放棄地を、すばらしい EM による「1000 坪ガーデン」に蘇らせる事業を開始したという情報を得ました。そこで、若い職員を連れて何度も、現地勉強会とボランティア活動に参加して EM のすばらしさと、手ごたえを職員共々、実感しました。その手ごたえに加え、EM に魅せられ現職を投げ捨てて他県から移住して職員となられた方も加わり、ワクワクドキドキで、再び EM を使った環境づくりの機運が高まっています。

現在行っている EM 活用事例についてご紹介します。米のとぎ汁発酵液づくりは利用者の方の毎日の仕事です。担当職員が噴霧スプレーのついた 500cc ペットボトルに 7 倍活性液を用意し、それぞれのエリアで一日 1 本撒き終えたら退勤時に事務室に空き容器を返し、次の朝も用意された 7 倍液を同じように各エリアに持ち込むというルーチンで撒き続けています。保育室室内にも散布しており、子どもたちにも散布しても大丈夫です。手洗いの時も、御昼寝の布団にも散布してお日様にあてます。靴箱すべて EM 漬けになっています。散布した後、布で拭きとると汚れも落ち、繰り返し使う重ね効果で EM が住み着き、爽やかな空間を作ります。



トイレ掃除では臭いの問題も活性液で解決します。保育で使うおしぼり、拭き掃除用のバケツにも活性液を入れてあります。施設の様々な感染症は送迎の車の中だと思いき、車にも米のとぎ汁発酵液の 7 倍液を撒き、掃除はプリン洗剤を使用しています。ランチルームのテーブルや家具にも 7 倍液を散布していますし、洗濯槽には原液を 300cc 投入し洗濯しています。施設のグリストラップも定期的に EM でお掃除をしています。厨房内の床や壁へ散布することで、フード周りの油污れの掃除が楽になります。冷蔵庫や冷凍庫も感染症の感染菌が EM の散布によって不活化されて予防になっています。

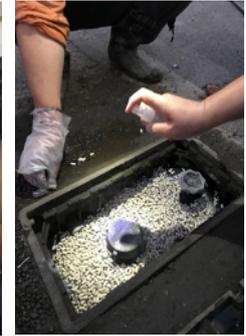


施設で飼っている 10 歳になるウサギにも活性液を飲み水に数滴入れてあげています。以前、今日にも息絶えそうなアヒルが這うようにしてそばにあったぼかしを食べ始め、その後、元気になって子どもたちと生活を共にした体験で EM の凄さを実感した経験もあります。

施設全体、オール EM 化しています。民営化以前、年 1 回業者による樹木への薬剤散布が行われていましたが、民営化されて 13 年、樹木への薬剤散布は行っていません。これは 50 倍海水活性液の散布と長年園庭に撒き続けた EM の効果だと思えます。園庭の遊具、砂場、建物、園庭にも 50 倍活性液を散布しています。夏の間は 1 万倍の活性液が入ったプール使用後の水も、園庭に撒くようにしています。ピル跡地を購入して駐車場にした場所は、コンクリートの廃材を粉碎して作った砂利、クラッシャーを敷き詰めた結果、近隣から埃の苦情が来ました。保育園への近隣の苦情は将来いろいろな問題をはらんでいきます。そのためにはアスファルト舗装もやむをえないかとまで考えましたが、地球温暖化を考えると決断がつかず、野本さんからのアドバイスで活性液を撒き続けた結果、埃の問題は解消され、300 万円の工事費用が浮きました。



コロナ感染の脅威にさらされてきたこの4年間、福祉施設ですから国の指導(アルコールや次亜塩素酸消毒)を守りながら、EMがそれらをイオン化して無害にするという特性を信じて施設内の樹木や建物には50倍の活性液を、室内には米のとぎ汁発酵液の散布をする一方で、子どもたちの腸内細菌を健全化することで自然免疫力をあげて感染菌から身を守る体になることを目指しました。そのため、EM・X GOLDを使って、100人の園児に対して、1日500cc、1本を給食のご飯や汁物に入れてきました。1日あたり、一人わずか5ccですがこの4年ずっと摂っていることとなります。その効果かわかりませんがコロナが流行っても休園しない園と言われてきました。



電気にはEMシールを貼って、いい電気に変えています。EMシールを貼る前と貼った後の電球の明るさの違いが出てきており、電気抵抗が整流されていることがわかります。施設内で使用する、特に給食に使う水の浄化も大事ですので、メーターのそばの水道管にEMシールを貼ったクリップを挟み、水道管の周辺にEMセラミックを敷き詰めています。

今年8月に、ナザレの村に野本さんをお招きして、勉強会と現地指導が実現しました。折角の機会だったので、野本さんの「EM活用塾」のラインで勉強会への参加を呼び掛けたところ、遠くは仙台からの参加もいただき、当園の職員にとってもよい刺激となり、目からうろこの敷地内の電磁波防止と、地震対策の結界、敷地丸ごとEM微生物叢にする方法を実施することができました。比嘉先生、野本さんには、いろいろな結界の方法を教えてくださいましたが、8月にはこの新たな方法での実践を試みて頂き、ナザレ方式と命名されました。私たちの周りにある6000ボルトの高圧電柱の周辺は、電磁波の被害が大きいです。それをいい電流に変えていけば、環境を大きく改善してくれます。

右の写真にありますように、リングしたら、パカパカ指が開いて電磁波の影響を大きく受けていることを確認しました。そこに、EMセラミックス10cc、墨汁35cc、活性液(海水活性液でも可)2Lで混ぜた液体を電柱の高さ1mくらいまで布きで、たたきつけた後に再度電柱のリングをしたところ、固く閉じて、開きませんでした。そのあと、電柱の根本に塩とEMセラミックスをまき、上から残った墨汁入り溶液をまきました。塩は買ってきた塩をより波動の高い物にするためにEM・X GOLDをスプレーして、イブストーンを入れ太陽にあてながら混ぜました。すると、たちまち、サラサラな塩に転換します。



炭はエネルギーを集め、塩はそのエネルギーを伝える役目があると聞いていますから、ロープを使わない結界を行うために、側溝を利用して、施設の敷地全体に結界を張ることになりました。まず、10mおきに、塩と炭を撒いた上に整流ブロックを置き、ブロックとブロックをセラミックと墨汁入りのEM活性液でつないでいきます。整流ブロックの一つに、初めは2か月に1回、そのうちに、半年に1回、EM・X GOLDをスプレーして重ね効果でメンテナンスをしておくと、結界は強化されるという野本さんの閃きの方法です。墨汁入り活性液は乾燥すると、コンクリート電柱に綺麗に馴染んだ色となり、ダメなエネルギーを蘇生型エネルギーに変えてくれますので、背中を当てて立っていると、体まで元気になります。さらに、野本さんの閃きでは、建物と敷地内の樹木を50倍の海水活性液を動噴で噴霧すると、立体的な敷地内全体の結界となると、その閃きを実践しました。特に、大きな樹木は根元から、1mの高さまでEMペインティングしたあと、樹木全体に活性液の散布を行い、建物は壁全体にEMクリーニングをするように散布をしました。これで、敷地全体と、その中にある樹木や建物が共鳴しあって、EM結界ドームができている雰囲気が出来上がりました。



現在、ナザレの村には障害者の方々が、70名通所しておられます。障害者年金などの公的な支援と、就労で得た賃金で、その人らしく、健康で、安心して暮らせる居場所を作るためには、ここを利用して働いて下さる方の工賃向上がおおきな課題です。そこで、ピュッフェ、あじさいファームの調理場では、うどんの製造や、アイスクリームやパン、弁当、EM関連商品などをつくり、毎日、大勢のお客様にご利用いただいております。毎日作るお弁当には、EM・X GOLDをスプレーしています。清掃の委託業務も担っていますが、そこでも米のとぎ汁発酵液7倍液を使っています。

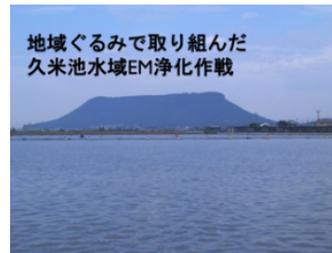


地域では、これまで農業をやっておられた方の高齢化が進み、耕作放棄地が地域社会の崩壊になりそうな気配も見えてきました。そこで、私達の法人では、荒地地にならない様に管理をさせていただき、お米や、野菜や、マコモダケなどを、EM グラビトン農法で栽培して、より高品質の作物作りを目指しております。EM 結界を施した、この空間では、EM 菌叢の気持ちのいい土の上で、穏やかな作業風景を見る事もでき、EM さんのパワーをいただき、元気な活動が繰り広げられております。



2013 年頃、広島県内海町の海苔養殖業の兼田功さんが、年間 800 トンもの EM 活性液を使って、海苔の養殖に挑戦されました。何軒もあった海苔養殖業者が海洋汚染の解決に EM 活性液で挑戦を試みられましたが、ことごとく、失敗される中、それでも、挑戦されてきれいになっ

た海苔養殖場を視察したことは、私にとって大きな衝撃的な希望でした。その当時、地元の水利組合から、近くにある 40 万トンのため池である「久米池」の悪臭対策の相談を受け、兼田さんや EM 研究機構のサポートを頂きながら、地域を巻き込んで、EM による「久米池浄化作戦」を開始しました。開始から 20 年間、小学生の EM だんご投入の浄化活動は、今でも続いております。希少植物アサザも繁茂し、全く悪臭のないすばらしいため池として、地域の方々から喜ばれております。その当時の久米池環境浄化には、比嘉先生と節子夫人にもお越しいただきました。これらの活動が、市内小中学校の、EM による環境学習や、プール清掃へと発展、継続して講師依頼をいただき活動を続けております。こども園との交流事業では、EM だんごを作って、川に投げに行ったり、田植えや稲刈りや大根の種まきをして、できた大根をたくあん漬けにするなど交流しています。



EM に出会って 30 年、私は周りに何と言われようと、迷うことなく、EM を信じて活動を継続して参りました。ユニバーサルビレッジ国際会議で、正木一郎教授の奥様が、故正木教授の言い残されたことばをご紹介してくださいましたことが、深く心に残っております。「地球上に起きているすべての問題は、EM でなら、解決できる。」と。今、私達は、厳しい現実に置かれております。環境も、人の身体も、これから生まれてくる胎児でさえ、例外ではありません。特に、これまでの環境の変化による、いろいろなリスクを受けて生まれて来ている障害をもった子ども達と接していると、これまで以上に、健康的な環境を作っていく努力を続けなければ、益々大変な事になるという危機感をもっています。そこで、福祉施設では、EM の凄さを理解し、EM のパワーが発揮できるような活用方法を身に付け、扱うみんなが、心を一つにして、EM 讃詞や拍手を感謝の気持ちとともに出来るよう、量子の世界の特徴を科学として、積み上げられるような人材の育成が急務だと考えております。

コロナ禍によって、毎年、各県持ち回りの、「善循環の輪の集い」の学びの場が中止になり、心配をしておりましたが、今では、ズーム講習会や、ライン仲間との情報のやり取り、全国に繋がっている EM の仲間との現地講習会など、アンテナを広げると、質の高い学びの場が確保できるようになりました。施設で働くスタッフのメンバーが入れ替わっても、確実な EM 活動が展開できるよう、情報交換を密にして、実践して参りたいと考えております。

「宮古島 New Revival Academy の活動報告」

一般財団法人 DARC 大きな和 代表 杜 宙樹

一般財団法人 DARC 大きな和は、比較的新しい団体で、僕自身は沖縄の方のダルクで 15 年ほど活動をしています。3 年前にこの財団法人を新たに設立し、大きく 2 つの事業を行っています。

1 つ目は、ニューリバイバルアカデミー宮古島です。沖縄県の宮古島にて、障害福祉サービスとして、主に就労継続支援 B 型と、法務省管轄の自立準備ホームという事業を行っています。

2 つ目は、沖縄県本島の北谷町にて、絆愛(はんな)こころクリニック、精神科、デイケアを行っており、ナイトはこれから行って行く予定です。心療内科を併設してやっています。絆愛こころクリニックの方も、日本では初めての試みということで、我々当事者、私自身も依存症からの回復者、当事者です。ここで働いているナース、医療従事者の人も、7 割が依存症、あるいは他の精神の疾患、パニック、統合失調症から回復した人たちが、スタッフとして運営しており、そこに医師がサポートで入ってくださるとい新しい形でやっております。こちら、EM 技術、EM 農法等をプログラムの中で採用し、お手伝いしてもらいながらやっています。本日は、ニューリバイバルアカデミー宮古島の活動について報告させていただきます。

テーマはリバイバル、蘇生ですね。これは、比嘉先生の映画で、「蘇生 I」、「蘇生 II」っていう映画のタイトルになっておりました。我々もこの蘇生を、1 つの理念、ビジョン、これからのやっていく使命として考えています。

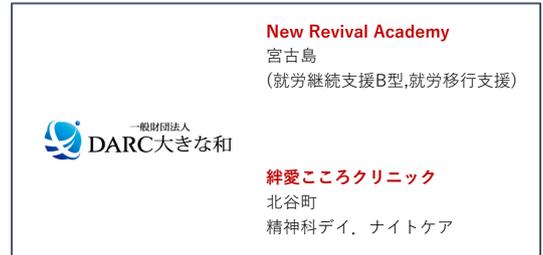
「社会的弱者が人間的強者に」というスローガン、理念を持ってやっています。人の蘇生、魂の蘇生を目指しています。ダルクは、主に依存症の人、アルコール依存症、薬物依存症、薬物でも最近増えている処方薬の依存とか市販薬の依存を含めたもの、社会問題になっている違法薬など、これらの依存症、あと、行為の依存症、ギャンブル依存症、ゲーム依存症、引きこもりというも依存ですね。また、人間関係の依存。そういった各種依存からの再生、蘇生、魂の蘇生、そして比嘉先生がいつもおっしゃっている地球の蘇生。それを、この宮古島という南国の癒しの地、癒しの聖地で色々なことを学べる、そして、回復を学んでリカバリーする場所になっています。

生きづらさを抱えた人たちの命を輝かせたいという思いで取り組んでいます。生きづらさを抱えた人たちというのは、社会的弱者と言われるような人たち、例えば、入退院を繰り返したり、中には刑務所に入った、あるいは引きこもってしまった方々です。私は 15 年間、回復の支援に携わっていて、福祉を学ばば学ぶほど、依存症やそれ以外についても、こんなに生きづらさを抱えた人たちが身近にいるということを知りました。社会の中で、もがき苦しんでいる人たち、その人たちが持っているものすごいエンパワーメント、力強さ、生き抜いてきたサバイバルの力を導きたい、そんな方々が日々の生活を通して学ぶ場所、そして、新しい生き方やスキルを身につける場所をつくり、その彼、彼女たちの命を輝かせたいという思いで作っております。

2 年前に、宮古島にある元修道院、19,000 坪というものすごい大きな土地、その修道院と司祭館を社会貢献事業のためにお借りすることができ、少しずつ手入れをしながら活動をしています。

依存症の方の他、精神の疾患を持った人や、貧困、DV 被害を受けた方、シェルター的に使ってもらってる方も多いですね。2021 年から少しずつ作業が始まり、月に 1 回、2 ヶ月に 1 回程度、EM 研究機構のスタッフから指導を受けながら、ボカシを作り、古い建物の中に EM を散布し、塗装にも EM を用いて事務所を作りました。また、EM セラミックを混ぜてヤギ小屋を作りました。鹿児島県の方から、純粋種が少なくなっているトカラヤギを連れてきて、ここで増やしていくために飼育をしています。農作物も少しずつでき始めております。バナナがこの 11 月ぐらいから収穫が始まり、順調に成長しております。

19,000 坪あるとはいえ、建物が立っているところは一部で、ほとんどが農地となっています。目の前が海で、プライベートビーチまで歩いて 5 分ぐらいで行けます。養鶏は来年度から始まります。



沖縄の本島にある新垣養蜂さんからの指導と、日本ミツバチ協会の方からの指導を受けながら、少しずつミツバチの巣箱を増やしています。ヤギが鹿児島島のトカラ列島から来たトカラヤギが今 2 頭、これから順次増やしていきます。この次には、やっぱり頭数が少なくなっている宮古馬、ちっちゃい口バのような馬なのですが、これも頭数を増やしていくための協力をしたいと考えています。

あとは、EM 技術等を含めて地域に広げるためのセミナー、学習会っていうのもやっていきたい。そして、自分たちができる範囲のこと、設備以外のごことは、DIY というプログラムにおいて EM を使った塗装、これは内装の技術として訓練を行っています。体にいいもの、体が喜ぶものを口にして、そして、元気な体、生活のリズムを取り戻す。ここで飲む飲料水には EM 飲料が含まれ、利用者さんは朝昼晩、3 回以上は飲んでおります。そして各種スポーツ、沖縄の宮古島ですので、マリンスポーツや釣り、各種アート活動。いろんな選択肢を利用者さんが選べるカリキュラムを作りつつあります。

現状ですが、昨年 4 月から事業としては開始し、実際、人が入って動き始めたのが、昨年の後半ぐらいからです。8 月の末までは、利用者さんの定着はなかなか、集客も結構スローな感じでしたが、平均大体 3 名から 5 名ぐらいが利用していました。この 9 月、10 月ぐらいから、本格的に整備が進み、人を受け入れられる安全、安心な環境ができ、男性 12 名の利用者さんがいます。住み込みの職員さん、スタッフさんも 3 名います。

現在の利用者さんの内訳は、依存症、アルコールや処方薬の依存症、大麻の依存症の方、また、統合失調症程度の知的障害の方、引きこもりの方です。長らく 3、4 年ぐらい引きこもっていた方がここに来て太陽の下で土を触りながら、アーシングをして、EM を体に取り入れながら生活することで、引きこもらずに継続している方もいます。

ここに繋がるルートとしては、沖縄県内外、東京とか神奈川の病院から来る方もいます。やはり、この癒しの土地、宮古島の環境を望まれて、遠方からこの施設の利用を希望する方が最近増えています。他に、福祉事務所、行政機関、弁護士の方とか、生活保護、家の紹介とか、あとは、地域、自治体や社会福祉協議会などから繋がる人もいます。

建物は 45 年前ぐらいの古い建物で、耐震基準も古い旧耐震基準となっていますが、建築士の先生に、今の人数が住む分には特に問題はないとお墨付きを頂いています。いずれ、安全安心に住める環境、そして、特にライフラインを整備するため、資金を集めていく予定です。現状は古い建物の中で、今住めるところを安全で綺麗に、衛生的に住める環境を作りたいので、ボランティアさんたちにお声かけしたところ、今年の夏、5 日間で延べ 33 名の方がお手伝いに来てくださいました。当事者の家族の方とか学生さんたちも来てくださり、看護師さんのグループ、そして、地元宮古島の JTA の支店の方々も入れ替わり立ち替わり来てくださって、トイレを直して下さったり、清掃して下さったり、台風でめくれたトタンの屋根を直して下さったり、おかげさまで、今、10 数名の方が快適に住める環境ができ、安全に暮らしています。

直近で、今、一番、力を入れているのは新しい品種のバナナで、酵素がとっても高く、比嘉先生の肝入とまで言われる品種のバナナを、この宮古島のアカデミーの主力商品の 1 つとして世に広げていくことです。支援者の方にバナナの味の感想をお聞きしたところ、大変好評で、とっても甘くて、糖度が高く、ぎゅつと詰まっています。近くの JA の新しい市場に持っていったら、またたく間に売り切れました。もう次の収穫が待ち遠しい商品になっています。



施設内は、古いコンクリートのところに定期的に EM 散布しています。とても蚊が多かったのですが、EM を使い始めてからは少なくなりました。EM を活用した生活を続けることで、寝付きが良くなったというのは、もうほとんどの方が言っています。今まで睡眠薬とか処方薬を飲まないで寝れなかったり、夜になると頭が覚醒したりという人が、まず寝付きが良くなった。これは恐らく EM を散布した部屋の中での寝付きと、あとは、お水の効果だと思っています。あとは、便通がすごく改善された。またメンタルの部分でも、ぐるぐる、ぐるぐるしていたところ、頭がすっきりした。思考が止まっていたような状態が、普通に回り始めたという人が多かったです。

宮古島という神聖な場所で、この 2 年間、特に依存症の人の回復の支援、依存症をベースに持った人、引きこもりの人を含めて支援してきました。ダルクは北海道から沖縄まで、全国で 90 か所あります。90 か所中 80 か所が男性の支援を行なっているダルクです。男性の依存症の人は自分で行きたいところを選べるのですが、その反面、女性の人の行き場所、回復する場所、安全、安心に過ごせる場所は、まだまだ圧倒的に少なく、全国で 10 か所程度しかありません。

EMと生活してみても

- ・体調→寝つきがよくなった、便通の改善。
- ・精神面→無駄なことを考えなくなった。思考停止時間が少なくなった。



依存症など、生きづらさを抱えている人の男女比は、ほぼ同数とされています。沖縄県内でも特に処方薬、アルコール依存症の女性は急増しています。我々は、これからの新しい多様な支援として、今まで手が届いてないところ、女性、特にお母さんのサポートを行っていくことが、次の我々の使命ではないかと気付かしまして、これから、2025年以降になりますけれども、この癒しの場所を使って、少し方向性を変えて、依存症を含め、生きづらさを抱える女性本人と子供を含めた支援を行っていききたいと思います。

農業を中心にした新しい生き方と、母子ともに社会に戻っていくためのスキルを学んで頂き、女性の自立の支援、依存症、DVの被害者、貧困や若年の母子、沖縄の社会問題にアプローチしたいと考えています。

このプロジェクトを、医療とも連携した施設、診療所、訪問看護のステーション、そして、母子支援施設、就労訓練施設などへ発展させ、最終的には、オンラインでも様々なことが学べる学びの場所、女性の自立の支援施設や障害者専用の専門学校など、広く展開していきたいと思っています。

我々の活動は、EM研究機構と連携を取りながら、指導を受けながら地球の蘇生と人間の蘇生、魂の蘇生ということテーマに、今後も活動をしてまいりますので、ぜひ皆様、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。





@MIYAKOJIMA.ACADEMY_

活動のご支援、ご協力 お願いします！！

- インスタグラム で日々の活動報告
- ホームページで支援会員 募集中
<http://www.darc-foundation.com/>
- 寄付金 献金 献品 ボランティア 募集
- クラウドファンディング (近日予定)

「講評」

U-net 理事長 比嘉 照夫

本日より発表いただいた野町さん、杜さん、ありがとうございました。

これまでの EM が効くか効かないか、あるいは EM をどう使うかのレベルの話だけでなく、今日の発表は、社会的に一番難しいという福祉施設や学校を含めた施設等で、EM が必要だけど、なかなか導入できないという場所での成功例と未来に向けての展開を発表いただきました。

野町さんの発表では、「地球上で起きているすべての問題は EM でなら解決できる」という、いわば EM の免許皆伝です。野町さんには EM の普及当初からフォローしていただいており、ついに免許皆伝にまで到達しました。当初は、白バラ保育園での建物への EM 活用から始まり、私の講演からの情報を直ぐに実行してきました。そのため、基礎的な情報がたくさん積み重なり、保育園や幼稚園での EM 活用から始まり、その後、福祉施設ナザレの里でも実践しますとのことでしたので、EM の福祉施設での応用ということで応援することになりました。

一方で、香川では久米池という大きな池がありますが、鯉等が水揚げされると臭くて大阪でも売れないと言われていましたが、EM を投入した後は物凄く評判の良い鯉が養殖できるようになりました。香川県では県全体に池がたくさんあるのですが、県内の多くの池で EM が活用されるようになり、県全体でも EM の認知度が高い県のひとつです。これは、四国 EM 普及協会の岩崎会長(当時)の協力とバックアップもありますが、野町さんのように確たる実績がないと、県全体に EM が広がることはありません。

今では EM に関する機能性の高い材料は EMX GOLD や EM グラビトロン炭等たくさんありますが、30 年くらい前の時には EM 活性液や EM ポカシくらいしかありませんでした。その当時の積み重ねによって、今ではどうとう“EM で解決できない問題はない”という結論に到達したことはすごいことです。

U-net としても、野町さんからは毎年高額の寄付をいただいています。本来なら、福祉施設の取組みでたいへんだと思うのですが、野町さんの EM に対する感謝の想い等を何かの機会に会員の皆さまにきちんと紹介したいと思っていたところです。

EM で成果をあげ、EM 活動や他の EM に関連しそうな活動とつなげて行く、例えば、農業と福祉施設をつなげて施設の利用者さんの賃金を上げる取り組みにする等、とても難しいことなのですが、このような課題も解決しようと取り組んでいます。

生ゴミのリサイクルはもちろんですが、季節ごとの課題に対してしっかりと EM を使うことで、施設の電気も EM 化されて性質が違ってきます。その他、施設から流れる排水は川や海をきれいにする浄化機能を果たします。このような施設そのものの存在自体が社会的にすごく重要な存在になっているのです。これまで 20~30 年間 EM に取り組んできたことで、EM で解決できない問題はない、と結論付けています。

この点に関連して、前回の EM 技術セミナー講評の補足となりますが、愛媛の野本さんは EM を社会の公器として取り組んでいます。周りの問題や課題はすべて EM で解決することができています。現在進めているユニバーサルビレッジ(UV)モデルづくりプロジェクトは、それぞれの地域で成果を上げており、なかでも、愛媛の野本さんのように EM を良く知っている方が牽引して行くと、すごい成果に繋がります。野本さんの活動は、地域を良くする最先端の技術であり、時代に合わせたプログラムを実践することで、1000 坪ガーデンは社会的資産となり、常に新しい技術を発信し、より良い地域づくりの基点となっています。野町さんは、高松でも愛媛の取組みを導入したいとして、野本さんを講師に招き最新情報の勉強会をしましたが、野町さんたちはこれまでの着実な実績があるため、最先端な実践でもすぐに受け入れることができたのです。このような勉強会を通じて、高松から始まり香川県全体にさらに EM が広まることができます。このような取り組みが、正に社会的な大きな資産効果となっています。

今までの EM が効くとか EM を上手に使う等のレベルではなく、EM 活用をしっかりと応用し、農業や関連しそうな事業とつなぎ、福祉に頼らなければならぬ社会的に弱い立場の人に給料も支払ながら関わる人すべてが上手く行く仕組みを構築します。そのためにはロス(無駄)をなくすことや、物質を循環させることが重要で、積み重ねの実践が必要です。このような実践の繰り返しを重ねることで、後に大きな力となります。EM の本当の力を応用して行こうと思うと、野町さんのように EM を信じて実践を重ねて行くことが大切です。EM のつながりの方がどんどん増えて、社会

を本当の意味で変革するモデルを作り上げることが歴史的に重要です。

私は EM については、いつも難しいところから挑戦させるようにしています。福祉施設もそうですが、放射能の問題や津波の問題等、今までどこも解決できないところに EM の挑戦をさせています。万能の神様ががついているようなものです。野町さんのように、地球の問題はすべて EM で解決できる、という視点は、人生の至福と言って良いと思います。人生に悔いの残らない、自己の人生が最高であったという人生を過ごしてほしいと思います。

沖縄 DARC の発表の写真でもありましたが、幽霊屋敷のような修道院跡がきれいに復活して、バナナやいろいろな農産物ができるようになり、入所者も徐々に増えています。薬物依存に対して解決しようとする試みは、従来の医学では不可能なことであり、薬や医療の方法で治ったように見えても、直ぐに元に戻ってしまいます。治療のためには、人間らしい原点のところまで戻り、すべてを自分で解決できるような方法を自分で身に付ける必要があります。そうでないと根本的な解決にはなりません。

薬物依存に関しては、日本だけでなく世界中の問題であり、本来なら EM 生活に徹すれば治療のための医療は必要ありませんが、このような意見は薬事業界が破綻しますので国は絶対に認めません。

大げさに言うと、病気の 99% は腸内微生物で決まるようなものです。私は EM 生活の徹底を提唱していますが、EM でインスタントヨーグルトを作り、いつも取ることで身体を EM 化することができます。お料理や洗濯、すべての生活の場面で EM を使うことで EM 化して、自分自身の腸内微生物を善玉化して、病気にならに生き方を実践することが重要です。また、私はもう何十年もトイレから毎日 EM 活性液を流していますので、私の住宅から宜野湾市にある浄化センターまでの間の河川にきれいになっています。通常、下水処理場や浄化センターがある海岸や河川では、魚があまり釣れませんが、宜野湾市の海岸ではすごく魚が釣れると有名です。云わば、私は毎日毎日 EM を使い流し続けていますので、毎日浄化活動をしているということです。皆さんも各家庭から EM を使い、流して行くことに取組んでいただければと思います。

EM 生活に徹すると、薬物依存だけでなく、自然に病気にならない生き方に繋がります。この点を分らせることが大変なのですが、宮古島 DARC の施設では、生活を通してこのような方法が分かるようになります。各自が理解し、普通の生活に戻って行くと、EM 普及をする側にもとても重要なことであり、DARC で EM を取り入れた成果は世界中に説明することができます。沖縄 DARC を紹介してくれた高野先生(元徳洲会最高顧問)は私の親友であり悪友でもあります。彼が紹介してくれるものは、私は何でも聞いて引き受けることにしており、DARC を紹介してくれたのも彼(高野先生)なのです。

東大の医学部を卒業し、医師であれだけ EM の理解をしてくれたのは彼が初めてなのですが、徳田さんの意志を引き受けて徳洲会病院を現在の状況まで育てた人なのです。私欲の無い人なのです。高野先生は網膜色素変性症になり、視力が落ちたのですが、私は EM で協力することにし、本来ならもう 20 年も前に目が見なくなっているはずですが、病気の進行はだいぶ遅くなり、今でも狭い視野ですが確認することができると彼は話しています。その高野先生の相談があったので、私は無条件で杜さんたちの活動を引き受けることにしました。そのことから、沖縄 DARC は EM ウェルネスリゾート(沖縄県北中城村)内に事務所を設置し、宮古島で EM を活用したモデルを運営することになりました。宮古島での EM を徹底して普及するには、やはりセンター的なモデルが必要であり、これまでの宮古島は EM が広がる可能性はあるのに実績が積みあがってこなかった背景もありましたので、DARC の施設において EM の普及的センター機能を兼ねて運営することで、DARC の活動自体が社会的なつながりが醸成されます。そのためには、DARC の活動を通じてより良い生産物ができることが必要なため、私は品質の良いバナナをはじめ、良い生産物ができる方法を提供しました。同施設からの農産物を販売することをきっかけに社会とのつながりが発生します。

我々が EM 栽培を指導しますので、圃場での連作障害の心配もありませんし、不耕起栽培にもチャレンジできますので、一度始めると楽々農業が実践できます。一方で、このような施設を運営するためには財源確保が大変です。補助金等のレベルだけでは実行が難しいので、やはり生産物からの売上と同時に生産する過程から生まれる治療効果も含めた財源になるという、このような背景が重要です。DARC から施設の周辺で畑が拓ける等の相談を聞いたときに、DARC を中心とした EM 村を作ろうと考え、DARC 宮古島の運営が軌道にのるまでは、EM 研究機構で協力することにしています。

その第一段階として、バナナ等の換金作物の生産を指導し、その次にはミツバチなのですが、ミツバチの飼育にはバナナの花はとて相性が良く、同時に施設内に花木や花々を植えることで蜜源を作りながら環境も整えることとなります。云わば、ミツバチを通じて様々な意味の自然生態系の教育になって行くのです。更に、ヤギやニワトリがいると、施設やその周辺の地域に、とても馴染みやすいので、このようなモデルは様々な地域で応用することが可能です。ヤギは、どんな植物でも食すると言われていて、その糞は微生物との相性も良いので、有機物の資源循環の良いモデルとなります。このような取り組みが広まって行くと、リハビリや職業訓練、あるいは自分で生きて行くための自信、根源的には、病気にならないという自信が生まれ、更には小さい面積であっても自給自足ができるという自信に発展します。その結果、DARCの抱える薬物依存あるいは精神的な様々な負荷を乗り越えることができます。将来的には、施設利用者の方の子育ては大変ですので、その前例として、一関市の福祉施設ブナの木園では耕作放棄地を借り受け、17haの農地においてブドウ園やリンゴ園を運営し、リンゴジュースや加工品を作っています。この施設では入所者家族が住み込みで利用し、運営に従事しています。建物もEM建築で、徹底してEM応用に取り組んでいる規模の大きな福祉施設です。東日本大震災で情報発信が滞っていましたが、その後も継続してEM活動を行っています。社会的にお金がかかってなかなか解決できないが、EMを介して農業活動を充実させ、また、入所者の賃金増にも取り組みながら日々改善に取り組んでいます。

今日のお二人の発表では、このような福祉分野における問題解決に取り組んでおり、答えを示している事例です。EMは扱いの世界ですので、それぞれの状況に応じて工夫し、実践を重ねることが大切です。このような活動を積み重ねることは、コヒーレントと言いますが、重ね効果が実現するまでエネルギーを重ね、成功するまで継続することが重要です。

私たちの活動でも同様で、以前から協力していたベラルーシ国立放射線生物学研究所と共同研究が積み重なり、EMによって福島県での放射能汚染が消えるという成果が証明されたことに繋がっています。また、エジプトやパキスタンの塩害のひどい地域においても、EMを活用することでお米が生産できた事例があり、この実績を東日本大震災の津波被害地で応用することで、津波直後の被災地でもお米が生産できました。このことから、今ではEMを上手に活用することで、海水や塩を肥料的に使うことができています。宮古島DARCでは海も近いので、EMと海水を活用したモデルとなることも可能です。

EM技術の応用を信じて実績を積み重ねると未来が見えるようになります。皆さんはよく、比嘉は根拠のない自信に満ち溢れていると皮肉を言いますが、私が積み上げた時間や情報量が他の方とは桁違いに違うためです。皆さんにも取り組んでもらいたいことですが、自分が実践してきたことが着々と積み上がり、その成果が人生の満足度に繋がって行きます。

本日の発表は、とても難しい分野においてEMの応用の取り組みを紹介いただき、突破口を示していただきました。しかも実行する方が自信を持っています。今回の事例を、日本や世界にこの成果が広がるものと期待し、私たちも応援したいと思います。

★令和5年第5回EM技術セミナーダイジェスト版 動画視聴のご案内（会員限定）

11月10日に開催された第5回EM技術セミナーでの発表をまとめたダイジェスト版動画を配信します。配信期間中はインターネットに繋がるパソコン、スマホがあれば、好きな時間にダイジェスト版動画が視聴できます。

【配信期間】 12月22日(金)の朝9時～12月25日(月)の夜9時まで

視聴をご希望される会員の方は **12月18日(月)**までにお名前と、「ダイジェスト版視聴希望」と標題に明記の上、事務局(info@unet.or.jp)へメールにてご連絡ください。

視聴用URLは12月21日(木)に事務局よりメールにてお知らせいたします。

★中米のホンジュラス共和国のホンジュラス国立職業訓練研究所(INFOP)が、YouTube で有用微生物群(EM)と発酵肥料の作り方を紹介する動画を公開しています。冒頭に EM の開発者であると比嘉先生が紹介されています。

本動画では、山の土などにいる有用微生物群が広義のEMとして利用されています。有用微生物群と言えば比嘉先生であると認識されていることがわかります。動画は以下のサイトからご覧になれます(スペイン語)。

<https://www.youtube.com/watch?v=OWxVCBgHuYU&t=50s>



★中米のコスタリカ共和国で EM 団子を活用して河川浄化に取り組んでいるコスタリカの市民運動(全国河川流域同盟)の活動が、CNN Español の TV ニュースで報道されました。以下は記事の内容の概要です。



CNN
地球への呼びかけ
「ラテンアメリカの環境パラダイスが問題を抱えている。それを解決するために戦う市民たち」

アメリカで最高の学生(そして、世界最高の学生の一人)です。しかし、多くの人に知られていない環境課題があります。それは、河川の汚染の増加です。献身的な市民の同盟はそれに対処するために戦っています。

河川の汚染問題の背後には複数の原因があると、コスタリカの全国河川流域同盟の創設者であるロベルト・デ・ラ・オッサは CNN en Español に説明します。主な原因の1つは廃水で、水処理されず河川に到達しています(処理されている汚水は 15%~20%です)。汚染の原因には農業における農薬、肥料の大量使用が追加されます。



Los microorganismos eficientes son una herramienta para limpiar los cursos de agua que se utiliza en múltiples países.

この問題に取り組むために、2015 年に彼は河川の回復のために自発的に働く様々な職業の市民のグループからなる同盟を立ち上げました。この数年間で、同盟は全国に約 100 の市民による水観測所、隣人が河川の状態を監視することを学び、1 年に 1~2 日の清掃の日を企画することに成功しました。

河川を浄化するために、同盟では有用微生物群(EM)を使用しています。EM は泥の球に接種され、水中に投入され、河川の汚れを除去します。デ・ラ・オッサは、「これはすでに世界のいくつかの国で使われている技術です。」と説明しました。

私たちは泥団子の作り方を地域住民に教え、微生物を入れて泥団子を作ったら、微生物を増殖させるために 22 日間は蓋をしておきます。その後、いわゆる「泥団子の祭り」として、川へ投げ入れます。「泥団子は川の中で、少しずつ溶けていき、泥は有用な微生物を運び、浄化のために働くのです。」と、市民水観測所のコーディネーター、インディラ・デ・ポーセは述べました。

本記事の原文(スペイン語)と TV ニュースの動画は以下の URL でご覧になれます。

<https://cnnespanol.cnn.com/2023/08/10/costa-rica-problema-rios-contaminacion-solucion-cte/>

事務局からのお知らせ

■U-net 第25回通常総会及び令和6年度第1回理事会の開催について(予告)

U-net 第25回通常総会及び令和6年度第1回理事会は来年、令和6年3月1日(金)に本年度と同様にオンラインで開催します。通常総会後の総会出席者限定セミナーについては、オンライン参加以外にも沖縄県のEM ウェルネス 暮らしの発酵ライフスタイルリゾート内の会議室で、発表を直接聞けるオプションも用意してハイブリット方式で開催します。

また、翌日の3月2日(土)は、当会法人会員のEM 研究機構様にご協力いただき、北中城村ユニバーサルビレッジプロジェクト(農を活かした健康・福祉の里づくり)事業の建設現場の視察、比嘉先生の青空宮殿、サンシャインファーム等の視察ツアーやEM ワークショップを会場参加者対象に実施することを計画しています。

具体的なプログラムや申し込み方法については、来年1月に正会員様に郵送します第25回通常総会のご案内文書をご覧ください。

■EM グリーン・ムーブメント・コンテスト 2023 開催中です。

当会法人会員のEM 研究機構様が世界のEM ユーザー、ボランティアを対象にEM グリーン・ムーブメント・コンテスト 2023 を開催中です。

EM グリーン・ムーブメントとは、人、環境、地球に関する問題に対する意識を高め、EM 技術で解決策を見出す活動です。本活動を世界中で盛り上げるために国内外のEM を活用した活動の動画をSNSで発信してゆきます。

EM 研究機構では、本年12月末日まで、a) 河川浄化(EM 団子イベント、団子づくり、河川浄化プロジェクトなど) b) 環境浄化(汚染土壌改善、廃棄物処理、衛生改善など)、c) CSR(自然災害支援、ボランティア活動など)、d) 家庭用(EM で清掃、生ゴミ堆肥化など)のコンテスト用の動画を募集中です。

本コンテストへの応募に関心のある会員の方は、U-net 事務局までご連絡ください。コンテストの案内と参加方法資料をメールにて送信します。

■令和6年度 U-net ユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクトへの応募を検討されている団体・個人の方の相談を受け付けています。

当会では令和6年度も U-net ユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクトへの提案を募集する予定です。応募に関心があるが、どんな準備をすれば良いかわからない、自分達が行なっている活動でも応募できるのかわからないと悩んでいる団体・個人の方は、ご遠慮せずに事務局までご相談ください。

★令和6年第1回 EM 技術セミナー開催のお知らせ(会員限定)

令和6年第1回 EM 技術セミナーを令和6年1月12日(金) 14時～16時に開催します。

セミナーへの参加申込は12月4日(月)から当会のホームページ(<http://www.unet.or.jp/>)のインフォメーション欄から受付を開始します。お申込み専用ページからウェビナー登録いただきますよう、お願い申し上げます。**お申込みの締め切りは1月11日(木)です。**

なお、セミナーのプログラムにつきましては、後日、当会のホームページでお知らせします。

※ 令和6年第1回 EM 技術セミナーは U-net 会員様限定の配信となっております。

ウェビナー登録時、ご記入いただくお名前と会員様のお名前が違う場合、参加登録が出来ない事がございますので、ご注意ください。また、グループ、法人会員の皆様は、氏名に加えて、所属するグループ名または法人名を記載いただきます様、お願い申し上げます。

例) 姓 名

ウェビナー登録についてご不明な点がございましたら、U-net 事務局にお問合せ下さい。